

事例 2 動画の活用により、目には見えないものを豊かに立体表現することをねらった事例

- 学年 第2学年
- 主な領域 彫刻に表す活動
- 事例のポイント

- ①空気や音のイメージを空間的に捉え、立体作品として表現する。
- ②目には見えないものを豊かに表現するために、材料に触れながら構想を深める。
- ③ICT端末を用いて実際の動きを撮影・視聴し、イメージを膨らませる。

1 題材名 「全力〇〇（まるまる） ～もしも日常生活で空気や音が見えたら…～」
 【第2学年】A表現(1)ア(7)、(2)ア(7)、B鑑賞(1)ア(7)、〔共通事項〕(1)ア、イ 彫刻に表す活動

2 題材について

- (1) 生徒の実態（略）
- (2) 本題材を指導するに当たって（略）

3 目標及び評価規準（※〔共通事項〕(1)ア、イはア_____、イ_____で示す。）

(1) 題材の目標

- ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、人体の全力の動きとその影響を表すための造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 〈知識及び技能〉
- ・アルミ線の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。 〈知識及び技能〉
- ・全力の動きの影響で起こる空気の流れや音などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に、日常の動作から主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日常の動作を深く見つめて感じ取ったことなどを基に表現する学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉
- ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、<u>人体の全力の動きとその影響を表すための造形的な特徴</u>などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 アルミ線の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p>	<p>発 <u>全力の動きの影響で起こる空気の流れや音などを深く見つめ感じ取ったことや考えたこと</u>などを基に、<u>日常の動作から主題</u>を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>日常の動作</u>を深く見つめて感じ取ったことなどを基に表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞</u>の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。（下線部は変更箇所）

4 指導と評価の計画（全8時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑	態	
1	<ul style="list-style-type: none"> 様々な日常の動作から主題を発想する。 マッピングで構想を練る。 			◎ 観察記述			「思考・判断・表現（発想や構想）」は、日常の動作を振り返り、思考を広げることができているかという視点で評価する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 日常の動作をICT端末で動画撮影し、動きの連続性を見ながら周囲の空気の流れや音の表現の構想を練る（アイデアスケッチ）。 			◎ 観察対話記述			「思考・判断・表現（発想や構想）」は、表現する日常の動作を観察し、思考を深めることができているかという視点で評価する。
3	<ul style="list-style-type: none"> アルミ線やラジオペンチの使い方を確認する。 頭や胴体の大きさ、手足の長さ、全身の筋肉のバランス等を意識して、人体を制作する。 	○	○				「知識・技能」は、用具や材料を適切に使い全身のバランスがとれた人体を制作できているかという視点で生徒の学習状況を把握し、指導に生かす。
4		◎ 観察作品	◎ 観察作品				「知識・技能」は、適切な道具の使い方と全身のバランスがとれた人体の表現という視点で評価する。
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> アルミ線の特徴を生かし、人体と動作の影響で起こる空気の流れや音などを工夫して制作する。 ICT端末で自分の作品を撮影し制作レポートをまとめる。 		○ ◎ 観察対話作品	○ ◎ 観察対話作品			「知識・技能」は、アルミ線の特徴を生かした空気や音の表現の工夫という視点で評価していく。 「思考・判断・表現（発想や構想）」は、アルミ線で表現する空気や音の形の単純化や省略、強調などを考えているかという視点で評価していく。
8	<ul style="list-style-type: none"> 他者の作品から表現の意図や創造的な工夫について考え、見方や感じ方を深める。 ICT端末で他者の作品を撮影し鑑賞レポートをまとめる。 				◎ 観察記述	◎ 観察対話作品記述	「思考・判断・表現（鑑賞）」は、作品から自分の見方や感じ方を深めているかという視点で評価していく。 「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体と制作記録カード、制作レポートから把握し、記録に残す。

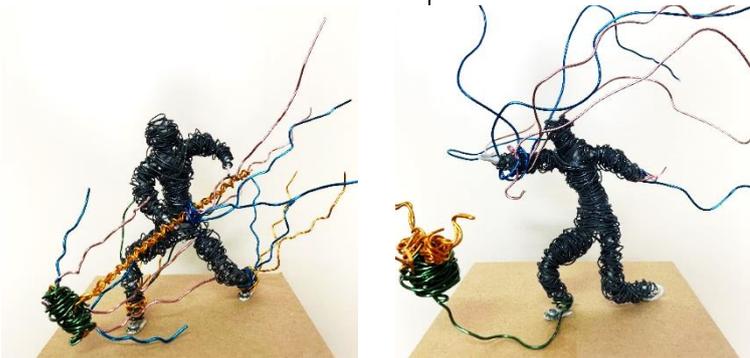
5 本時の学習（本時 5 / 8 時）

- (1) 目標 ・アルミ線の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。
 〈知識及び技能〉
 ・全力の動きの影響で起こる空気の流れや音などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に、日常の動作から主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備

- 教師：教科書、資料集、アルミ線、ラジオペンチ
- 生徒：教科書、資料集、筆記用具、I C T 端末

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿（「 」）	指導の工夫 〔〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入 10分	<p>提案 人体の周囲の空気の流れや音をアルミ線で表現しよう。</p> <p>1 本時の授業内容と目標の確認をする。</p> <p>2 ラジオペンチ、アルミ線を準備する。</p> <p>「アルミ線で空気の動きを表現するなんて、不思議で面白そう。」 「空気の様子や流れ方の違いで、色を変えているのかな。」</p>	<p>○完成までの見通しと本時の授業内容と目標を確認できるように、板書と制作記録カードで説明する。</p> <p>○作品全体のイメージを確認できるように参考作品を大型画面で提示する。</p> 	<p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(1)(2)(8)</p>
展開 30分	<p>3 アルミ線を使って動きの連続性や周囲の空気の流れ、音を表現する。</p> <p>「手で曲げる表現と、ラジオペンチを使ってできる表現が違うな。」 「腕を早く振り上げると、周りの空気も勢いよく動いていくので早そうだな。」 「風を表すには、何色がいいかな。」</p>	<p>○アルミ線の曲げ方や長さ、密度によるイメージの違いについて、実際に手を動かす中で気付くようにする。</p> <p>事例のポイント② 材料に触れたり、道具を使ったりすることをで、構想が深まっていく。</p> <p>○アイデアスケッチでの構想に加え、I C T 端末で撮影した動画を視聴し、一連の動作の流れから空気の流れ、音の形や色彩についてイメージさせる。</p> <p>事例のポイント③ I C T 機器で実際の動きを撮影し、視聴しながらイメージを膨らませる。</p>	<p>【発】全力の動きの影響で起こる空気の流れや音の単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 （観察・対話・作品）</p> <p>◎アイデアスケッチを基に空気や音のイメージを考えて、アルミ線でできる立体的な表現を構想している。</p> <p>◆手やラジオペンチでアルミ線を曲げて見せ、アイデアスケッチの形を表現できるように声かけをする。</p>

	<p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(6)</p>	<p>○周りの空気や音を表現する形や色彩がどのような効果をもたらすのかを考えさせる。</p> <p>【指導に生かす評価】 「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連付けて、「知識・技能（技能）」の視点で、アルミ線の特徴を生かして空気や音を表現しようとする様子を、観察や作品から見取り、指導に生かす。</p>	<p>【技】アルミ線の特徴を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。（観察・対話・作品）</p>
整理10分	<p>4 本時の授業の振り返りをする。自分の学習状況を確認し、次回の授業の見通しをもつ。</p>	<p>○加工に失敗したアルミ線はリサイクル箱か廃棄箱に入れさせる。</p> <p>○本時を振り返り、次回の制作の段階や完成までの見通しをもてるように、本時の成果と課題を言葉でまとめる。</p>	

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、
 発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、
 態表＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準、
 態鑑＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。
 ※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 補足

- (1) 在籍生徒数 40 名
- (2) 2 学年は部活動が充実してくる時期であるため、生徒が安易に部活動での動きを主題としてしまうことが多かった。普段の生活の中で無意識に行っている動作の面白さに目を向けさせ、豊かな発想を促すことができるように「日常の動作」とした。
- (3) 道具や材料の管理がしやすく、お互いの活動が見えるように班隊形での活動とする。

(2) アイデアスケッチの例



(3) グループ用道具・材料セット



- (4) 3 時間目に道具（ラジオペンチ）の使い方の指導をする。
- (5) 板書計画

本時 ⑤/8 「人体の周囲の空気の流れや音をアルミ線で表現しよう。」

手を使う？ ラジオペンチを使う？ ワークシートを見る？ 動画を見る？

準備 作品（取りに来る）、アルミ線、ラジオペンチ、ICT 端末

片付振返 00:00 ★使わないアルミ線は、教卓のリサイクル箱か廃棄箱まで

次回 本時の制作の続き